



防災だより

(発行元) 愛南町消防本部防災対策課 Tel.72-0131



地震が起きる前に

近年、全国的に台風や集中豪雨による被害が発生していますが、地震においては、令和4年1月、政府の地震調査研究推進本部の発表では、南海トラフ地震が今後40年以内にマグニチュード8から9クラスの地震が発生する確率を「90%程度」に引き上げられました。

今後、いつ起こるか分からない地震発生後にも普段どおりの生活を送るためには住宅の耐震化が非常に重要です。必要に応じて耐震補強を行い、ご自分の家の安全を確保しましょう。

●地域や住んでいる建物によって地震による揺れの強さが違うことを知りましょう。

	震度 0	人は揺れを感じない。
	震度 1	屋内にいる人の一部が、わずかな揺れを感じる。
	震度 2	屋内にいる人の多くが、揺れを感じる。眠っている人の一部が、目を覚ます。
	震度 3	屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。恐怖感を覚える人もいる。
	震度 4	かなりの恐怖感があり、一部の人は、身の安全を図ろうとする。眠っている人のほとんどが、目を覚ます。
	震度 5弱	多くの人が身の安全を図ろうとする。一部の人は、行動に支障を感じる。
	震度 5強	非常な恐怖を感じる。行動に支障を感じる。
	震度 6弱	立っていることが困難になる。
	震度 6強	立っていることができず、はわないと動くことができない。
	震度 7	揺れにはんろうされ、自分の意思で行動できない。

●震度とは、地面の揺れの強さで表しますが、同じ地震でも地盤や同じ建物でも階により揺れの程度が違ってくるので、地域で想定されている震度を基に実際に自宅や職場がどれくらい揺れるのか知っておく必要があります。

●マグニチュードは地震そのものの大きさを表すもので、実際の揺れの強さを意味するものではありません。マグニチュードが大きくても震源から遠いところでは震度は小さくなります。